



Yonago East Weekly

「自分にチャレンジ！自分に奉仕！そして、ロータリーを楽しもう！」

- 創立／1968年4月24日 ●事務所／米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
- 例会日／水曜日12:30～13:30 ●例会場／ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
- 会長／小谷維夫 ●幹事／永島清孝 ●会報／足立博俊

会員数85名

今週のお祝い

結婚記念祝： 2日 石井敬薫君 6日 野坂裕一君
12日 関充宏君

会長挨拶

皆さまこんにちは。早いもので2月も最終の例会になりました。今日の例会は、5RCの合同例会が中止になったその代わりでございます。

24日の日曜日に「第11回米子市中学生作文コンテスト」の表彰式が米子市教育委員会教育委員辻谷由美氏と(株)中海テレビ放送代表取締役専務高橋孝之さんを来賓に迎え、中学生、保護者とR会員の皆さんとで厳粛な中にも、受賞者・ご家族の喜びの中で開催いたしました。今年度は、「仲間～真の仲間・友人ってなに～」をテーマとして、9つの中学校から742編の応募があり、第1次選考で78編に絞り、第2次選考で最優秀賞1編、優秀賞2編、入選10編、佳作20編を選び、最優秀賞1編、優秀賞2編、入選10編の計13編を表彰いたしました。

最優秀賞：後藤ヶ丘中学校 角直樹君「かけがえない宝物」

優秀賞：弓ヶ浜中学校 末葭千晶さん「私の側で笑ってくれる人」

優秀賞：湊山中学校 森海斗君「みんなでつないだひとつのタスキ」

コンテスト全体の講評は、選考委員長の尾沢会員が温かい目と心で的確に伝えていただきました。その後、最優秀、優秀、入選作品の本人の朗読があり、やはり、本人の朗読を直に聞きますと、文面を読んだ時とは違った印象で訴えかけるものを感じました。10代の中学生の若い感性とその中に少し幼さが残っているような、また、時として、こちらが驚くほどの大人びた表現と観察力がありました。作文コンテストも無事終わり、小谷年度の大きな事業はほぼやり終えたというところです。

今週の予定ですが、3月1日(金)と2日(土)に

米子松蔭高等学校へ行ってきました。3月1日は荒川圭三会員が表彰式、3月2日は私が卒業式への参列です。学校長式辞に続いての永島理事長の「理事長告辞」の内容を楽しみにしております。

これからも決して緊張を解くことなく、まだまだ大きな問題もありますので、考えながら残りをやっていきたいと考えています。これからもよろしく願いいたします。ありがとうございました。

幹事報告

1. 2/24 第11回米子市中学生作文コンテスト表彰式
最優秀賞「かけがえない宝物」角直樹君
2. 2/23八尾東RC創立40周年記念式典 井上(賢)君、宮本君出席
3. 4/6青少年交換派遣学生オリエンテーションのご案内
(ホテル日航倉敷)
4. 3/13第4回家庭集会のご案内 (芭蕉庵)
(倉吉RCホスト) 倉吉未来中心
5. 例会変更のお知らせ
松江東RC3/14(木)夜間例会 ビジター受付あり

今後の行事予定

3/13 第4回家庭集会

(芭蕉庵 角盤町店)

3/20 休会 (法定休日)

4/14 IM

(倉吉未来中心)

4/28 地区協議会

(津山文化センター、津山国際ホテル)



Peace Through service

奉仕を通じて平和を

< プログラム >

「PM2.5とは？ その予防と対策」: 荒川 圭三 会員



杉本会員から卓話の依頼を受けたとき、「耳鼻科なので専門でしょう」と言われたのですが、よく考えると、これは公衆衛生の話であり、私は専門ではないと思うんですが、少し迷いながら受けさせていただきました。最後まで、お付き合い下さい。

まず、PM2.5ってよく聞きますが、「何なんだ？」、「いつから、どこから来たのか？」、「健康への影響は？」、「その防御法は？」といったことを考えてみたいと思います。

PM2.5のPMとは、粒子状物質(Particulate Matter)のことで、一般的には、マイクロメートル($\mu\text{m}=1/1000\text{mm}$)の大きさの固体や液体の微粒子のことをいい、その大きさにより、PM10、PM2.5 SPMなどと定義されます。SPMは、日本独自の単位でPM6.5~7に相当します。PM2.5は、1990年代後半より採用され始めPM10と共に大気汚染の指標とされます。これらには様々な起源があり、PM2.5の大部分はディーゼル排気微粒子という研究もあります。人間が呼吸を通して微粒子を吸い込んだとき、鼻、喉、気管、肺など呼吸器に沈着することで健康への影響を引き起こす可能性があり、概ね、 $5\mu\text{m}$ 以下の粒子は肺胞にまで達し始めます。小児は吸入粒子に対するリスクが大きい可能性があり、COPD(慢性閉塞性肺疾患)では気管閉塞により全肺、特に気管支での沈着が増加する。沈着した粒子は、咳、鼻汁、気管線毛運動、肺胞マクロファージによる貪食・輸送などのクリアランス機能により、次第に除去されていく。

一方、不溶性が高い粒子は長期に亘って肺に残留するものであり、粒子の約3分の1が体内から除去されないとの報告もあります。変異原性(DNAや染色体に損傷を与え突然変異を起こす性質)や発癌性も示唆されており、PM10が年平均 $100\text{mg}/\text{m}^3$ になると呼吸器への影響、全死亡率の上昇などがみられるとの報告があります。粒子状物質の濃度は屋内も屋外もほぼ同じですが、個人の暴露影響との相関は屋外よりも屋内・PM10よりPM2.5の方が大きい。対策は暴露を低減することで、手洗い、うがい、マスクの着用・空気清浄機の設置、屋外活動の制限などがあります。中国では北京などがある華北を中心として冬季に大気汚染が悪化する傾向があり、春節で用いる爆竹の煙も汚染源となります。

北京ではPM2.5が2012年1月23日午前1時に前日の80倍の $1.593\mu\text{g}/\text{m}^3$ に急上昇した後、朝には約 $40\mu\text{g}/\text{m}^3$ まで低下したそうです。2013年1月の汚染は、「1961年以来最悪」(北京日本大使館)、「歴史上まれにしか見られないほど」(中国気象局)とのことで、12日には北京市内の多くの地点で環境基準(日平均値 $75\mu\text{g}/\text{m}^3$)の10倍に近い $700\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超え、月間でも環境基準(同)を達成したのは、4日間だけということです。日本ではPM2.5等のデータがインターネットで公開されており、大気汚染広域監視システム「そらまめ君」でチェック可能です。N95などの規格の防塵マスクで防ぐことは可能ですが、正確に装着しないと効果は見込めません。以上です。ありがとうございました。

次回プログラム

3/ 6 「ロータリーの友」紹介

「私の職業」

3/13 「婦人交流会 in ソウル報告」

「今後の不動産の展望」

3/20 休会(法定休日)

3/27 「学友会の活動とこれからの展望」 RI第2690地区 学友会会長 梁栄友 氏

雑誌委員会

南葉健一会員

赤山俊寛会員

赤山俊寛会員